

## 事業概要票

## 事例NO. 34(平成18年度発表)

事例キーワード

環境負荷の低減

事業名	ため池等整備事業(用排水施設整備) 一ノ目潟地区
事業担当機関	秋田地域振興局 農林部
事業期間	平成16年度～平成21年度
実施場所	男鹿市北浦西水口地内
事業概要	全体事業費 580百万円
	工事概要 水路トンネル工 L=910m
事業の目的	<p>男鹿国定公園地内に位置する本水路は準用河川野村川から一ノ目潟のため池に導水するため明治年間に築造された水路トンネルであるが、近年トンネル内壁の風化が急激に進み、随所に崩落が見受けられる状況にある。</p> <p>この状態を放置しておく、通水阻害や地山の崩壊による断面閉塞が起こり、受益地への用水供給が出来なくなるほか、トンネルの決壊により国定公園地域内の林地崩壊や農地、農業用施設、公共施設へ多大な被害が生ずることから、早急な改修を行うものである。</p>
環境配慮の内容	<p>工事着手に先立ち、工事区域の植生等を調査した。その結果、仮設道路計画区域に県のレッドデータブックで絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているサワギクのほか、男鹿国定公園の指定植物数種が確認された。</p> <p>この仮設道路は、市道から現場までの資材運搬等に必要不可欠な施設であることから、県自然保護課と連携を図りながら以下の対策を講じた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①植物相調査を行い対象地域内の植物をリストアップした。</li> <li>②絶滅危惧種及び指定種の確認地点を位置図に記載し個体数を調査した。</li> <li>③仮設道路の基礎を地域内から発生する土砂により土のう袋詰にしたうえで築立し、その上にコンクリート舗装を実施した。(工事完成後に施工前の状態に戻しやすい)</li> <li>④通常、仮設道路両脇に設置する排水路を道路中央に設置し、道路幅員を最小限にした。</li> <li>⑤工事区域内から発生する濁水を仮設排水路を経由して沈砂池に導入することにより、一ノ目潟に濁水が流入しないようにした。</li> <li>⑥仮設道路3路線について実施を検討し、その中で環境へ与える負荷が少ないと考えられる1路線の整備を行った。</li> </ol>
施工後の状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>①仮設道路を沢添いに計画し、排水路を道路中央に設置したことにより、切り土箇所が少なくなることに加え、道路用地にかかる面積を少なくしたことにより改変範囲が少なくなった。</li> <li>②工事箇所から沈砂池まで仮設排水路を設置することにより、一ノ目潟への濁水の流入を防ぐことができた。</li> </ol>

一ノ目潟地区 位置図





## 事業概要票

事例NO. 34 (平成18年度発表)

### 植生調査状況

No. 41

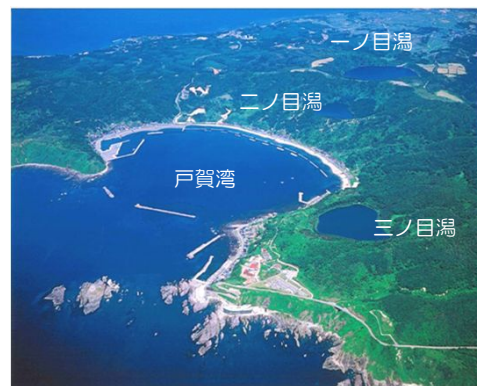
写真票題

植生調査地  
No.14調査状況

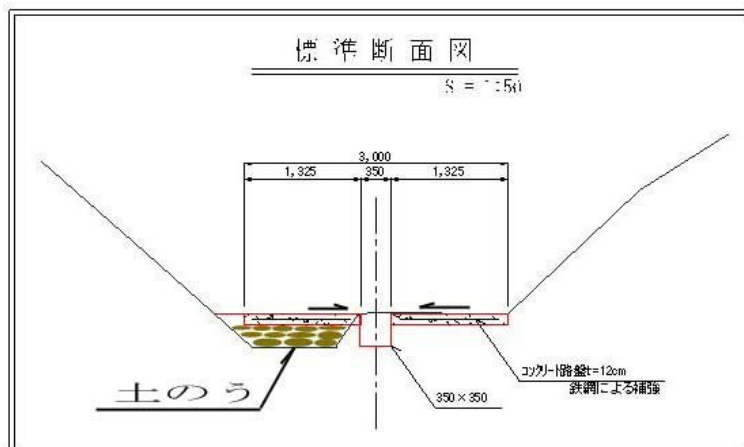
2005年6月23日



### 空から一ノ目湯を臨む



### 仮設道路標準断面図



### 土のうによる仮設道路基礎の築立作業



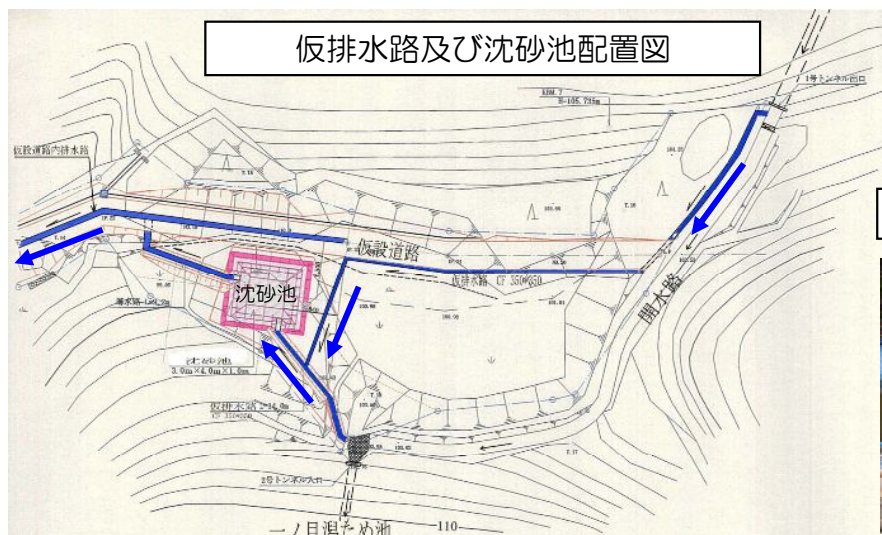
### 仮設道路（施工前・現況）



### 仮設道路とタイヤ洗い場（施工後）



### 仮排水路及び沈砂池配置図



### 沈砂池

